

現地レポート／中宮賢樹（物理科学研究科 宇宙科学専攻）

派遣先：アメリカ合衆国

海外派遣先機関名：University of Michigan

派遣期間：2008年1月28日～2008年3月24日

報告年月日：2008年3月7日

授業・研究の進捗状況

最初の1週間はヒューストンで開催された米国航空宇宙学会に参加し、これまで行なってきた研究（太陽－惑星系の重力と遠心力が釣り合う点近傍に存在する周期軌道に宇宙探査機を移行させる軌道の研究）の発表を行なった。学会期間中には会場の近くにあるジョンソン宇宙センター（JSC）へのツアーに参加し、アポロ計画で使用されたサターンVロケット等を見学した。

その後、University of Michigan（以下UM）があるミシガンに移動し、今回の受入教官であるScheeres氏と今後について話し合いを行ない、これまでの研究をさらに考察し、現在は特に移行軌道の飛行時間の低減について解析を行なっている。また、今回の海外派遣の成果を今年9月にイギリスのグラスゴーで行なわれる国際宇宙会議（IAC）で発表するため、Abstractを提出した。

授業の登録は行っていないが、いくつかの授業を見学という形で学生に交じって聴講している。



- サターンVロケット（JSCにて） -



- 住んでいるCO-OPの外観 -

生活関連状況

UMがあるAnn Arborは、のどかな学生街であり治安は非常に良い。しかし、Ann Arborを少し離れると犯罪率が高く有名なDetroit等の街があり、注意が必要である。気候に関しては、ミシガンはカナダとの国境沿いに位置し、しかも滞在期間が真冬ということで非常に寒く、マイナス20℃以下になることもある。しかし、どの建物も暖房設備は充実していて、風呂やトイレなどにも暖房器具が標準で備えられていて、思ったよりは冬の厳しさは感じない。今回の滞在では、CO-OPと呼ばれる学生寮のような所で暮らし、風呂・トイレは共同であるが非常に家賃も安く、また一日三食の食事もあるため研究するのに集中できる環境にある。さらにCO-OPの住人は世界各国から来ているので、彼等と異文化交流をはかっている。

その他報告すべき事項

今回はビザを取得して滞在しているが、その際に旅行保険とは別に大学の規定により高額の医療保険への加入が義務付けられていたので、他の滞在でも事前に確認することが望ましいと思われる。

アメリカ国内便の飛行機は出発時間が頻繁に変更されるので、余裕を持った計画を立てて移動した方がよい。また今回 lost baggage (荷物紛失) に遭い、二日間荷物が戻ってこなかったので、生活に必要な最低限の荷物は機内に持ち込んだ方がよいと感じた。